

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：33302

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12428

研究課題名（和文）生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の連動的な展開

研究課題名（英文）Co-creation of Visions for Livable Cities and the Integrated Development of Sustainable Tourism

研究代表者

片桐 由希子（KATAGIRI, Yukiko）

金沢工業大学・工学部・准教授

研究者番号：50508190

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：都市ビジョンの共有と観光の連携の可能性を、事例調査を通じて以下を明らかにした。1）SDGs未来都市における都市ビジョンと観光の取り組みにおいては、観光が都市ビジョンを伝える手段として有効であり、観光プログラムや施設整備を通じて目標とする環境を具現化や評価基準の形成が行われている。2）観光を通じた地域文化資源の継承において、SDGsツーリズムとしての観光コンテンツの開発が有効であるが、業務調整や人材確保の課題である。3）ヨーロッパの温泉保養地・アジアの都市回遊トレイルは、市民と観光客の双方が、都市と自然のつながりを強化するリブランディングと新しい都市ライフスタイルが経験として提示されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市ビジョンと観光政策に関しては、それぞれの特徴的な時代・事業に着目した研究、walkable cityやlivable city、環境共生都市など生活と環境の質に視点を置いた都市に関しては、計画技術や評価指標に関する多くの研究がある。本研究では、ステイクホルダである事業者や市民の実感に結びつくレベルでの具体性を持ったビジョンの発信の手法として、また、環境、歴史文化、健康の各分野、空間整備とコンテンツ開発など、分野を横断してのビジョン共有・実装に向けての観光の可能性を提示した。

研究成果の概要（英文）：The potential for sharing urban visions and integrating tourism was clarified through case studies. 1) In SDGs Future Cities, tourism is an effective means of conveying urban visions. Through tourism programs and facility development, the target environment is materialized, and evaluation criteria are formed. 2) In inheriting regional cultural resources through tourism, developing tourism content as SDGs tourism is effective, but challenges include coordination and securing personnel. 3) European spa resorts and urban trails in Asia enhance the connection between urban and natural environments, offering rebranding and new urban lifestyles as experiences for both citizens and tourists.

研究分野：観光地域計画、ランドスケープ計画

キーワード：都市ビジョン サステイナブルツーリズム 生活都市 観光インフラ ウェルネスツーリズム

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) 生活都市の実現に向けた都市政策の転換

世界的な潮流として、生活と環境に視点を置いた都市への転換が課題となっている。特に国内においては、少子高齢化・医療費負担の増大を背景に、「健康長寿命」の実現が医療福祉や都市計画、スポーツ振興等の各分野の主要テーマとなっており、厚生労働省の「地域包括ケアシステムを軸とした『自然に健康になれる』コミュニティや社会の実現」、国土交通省の「コンパクトな都市構造への転換を基本とする、歩行による健康増進に視点を置いた『健康・医療・福祉のまちづくり』」、文部科学省の「スポーツ振興を通じた『社会の目標像としての長寿社会』」など各分野のビジョンと政策展開がみられる。

自治体におけるビジョンの実装段階において課題となるのが、分野横断な展開と無関心層への浸透である。ロンドン市では、都市インフラとしての従来の「緑」のストックに裏付けられた生活都市を広く共有するためのビジョンとして「国立公園都市」を宣言したが(2019年)、「誰一人取り残さない」の持続的な発展を目指す上で、市民の実感に結びつくレベルでの具体性を持ったビジョンが求められる。

#### (2) 生活都市における持続的な観光の発信

2001年のシンガポールの都市ビジョン「City in a Garden」に見るように、環境をインフラとした暮らしやすさに視点を置いた「livable city」の発信は、世界的な都市間競争を背景としたシティープロモーションの流れであり、都市観光を振興する上での有用な手段となっている。

一方、都市の魅力向上に伴う観光客の増加は、オーバーツーリズムにもつながることから、各地でサスティナブルツーリズムの実現に向けたアプローチが模索されている。中でも注目されるのは、コペンハーゲンやアムステルダムで取り組まれている、積極的な観光プロモーションによる誘客促進から、環境への配慮、自転車や歩行環境などの交通インフラの整備など、住民の日常的生活やライフスタイルを基盤とする観光への政策的な転換である。このような生活都市を基盤としたサスティナブルツーリズムへの移行は、観光客がその都市のビジョンを受け入れ、観光行動に反映することを前提としたものであり、そのための効果的なビジョンの発信が求められる。

### 2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では以下の2点を目的とする。

#### (1) 持続的な観光の実現における都市ビジョンの活用手法とその効果を把握する

都市政策におけるビジョンやシティープロモーションに関する研究では、変遷の経緯や特徴的な事業に着目した研究の実績があるが、本研究では、住民の日常的生活圏域におけるインフラや活動に範囲を絞りながら、持続的な観光における都市ビジョンの活用の視点を整理し、その相補的な効果を把握する点に独自性がある。

#### (2) 都市ビジョンと連動した持続的な観光のフレームを提示する

近年、都市計画と健康・福祉分野など分野横断的な都市施策の展開については、大学や自治体、民間企業等の連携による社会実装が試みられているが、生活都市ビジョンを具現化し、発信する手法としての観光に注目したものはない。本研究では、複合領域である観光分野の計画・マネジメントの領域に、都市ビジョンに紐づけられる各分野の手段と達成目標を、有機的に連動させるためのフレームを提示する点に独自性がある。

### 3. 研究の方法

本研究では事例研究・実践的研究を基本スタイルとし、そこで得られた知見にもとづき理論的枠組みの構築を行う。まずは、生活都市のビジョンと観光における網羅的な事例の把握と分析のためのフレームの整理、次に、対象都市を絞った都市ビジョンと観光の相補性に関する分析、そのうえでこれらを踏まえた計画・マネジメントのフレームの検討を行う。

#### (1) 観光による都市ビジョン発信、ビジョンの実装による観光コンテンツの充実の事例調査

生活・環境に視点を置いた特徴的な都市政策を推進する掲げる国内外の都市を抽出した上で、政策・事業に関連する資料(計画書、地図、パンフレット等)にもとづく文献調査、現地調査、および行政担当者やDMOに対するヒアリングを行う。分析の項目として、交通、健康・福祉、教

育、文化活動、交流、環境等の各領域に関連する生活都市へのアプローチ、インフラの整備や環境保全、公共空間や低利用地の活用、人材育成を設定する。また、観光コンテンツについては、トリップアドバイザーなどのWebサイト、ガイドブックを用い、住民の日常的な生活圏域におけるインフラや活動の範囲で実施される観光による都市ビジョン発信に関わる事例を抽出する。また、空間的な分布や関連する観光資源を整理した上で、経緯やステイクホルダと運営体制、関連制度を含め、実施の状況を明らかにする。

### (2) 都市ビジョンに内在される観光ポテンシャルの分析

課題1において整理された都市ビジョンと、観光による都市ビジョン発信、ビジョンの実装による観光コンテンツの充実との対応の状況について整理し、実施体制や空間的な分布も含め、その特徴について分析する。また、都市間の比較を行いながら、都市ビジョンに内在する観光への展開のポテンシャルとその活用可能性について分析する。

### (3) 都市ビジョンと連動した持続的な観光の計画・マネジメントのフレームの提示

(1)(2)の成果に基づき、都市ビジョンと連動した観光の持続的な観光の実現、生活都市の実現における効果を明らかにする。特に、都市ビジョンの実現という長期的な取り組みに対する順応的な対応や、実証実験的な活用も含めた観光分野からのアプローチ、持続的な観光の基盤としての生活都市の可能性を分析した上で、双方からの計画論的なフレームを提示する。

## 4. 研究成果

### (1) SDGs 未来都市における持続可能な都市のビジョンとその共有における観光の役割

バックカスティング思考によるまちづくりへのアプローチとしての観光の役割を考察することを目的とし、2021年までにSDGs未来都市に選定された都市を対象に、計画書に示される都市ビジョンと観光分野での取り組みについて、持続可能な観光と地域振興の視点から取り組みの内容を把握した。観光は、観光学習や体験型観光の対象、移住や新たな活動の場、投資先として選択の要件となっている自治体のSDGsへの取り組みを伝え、共感を得る手段として認識されている。さらに、ライフスタイルを含めた都市ビジョンを実装に向けた手段として、観光プログラムや生活拠点施設の整備を通じて、目標とする社会環境や生活環境を先行的に具現化すること、その体験を通じて、観光客や住民、地域のステイクホルダの間でビジョンに対する評価基準が形成され、行動としての実践に反映されることが期待されていることを明らかにした。

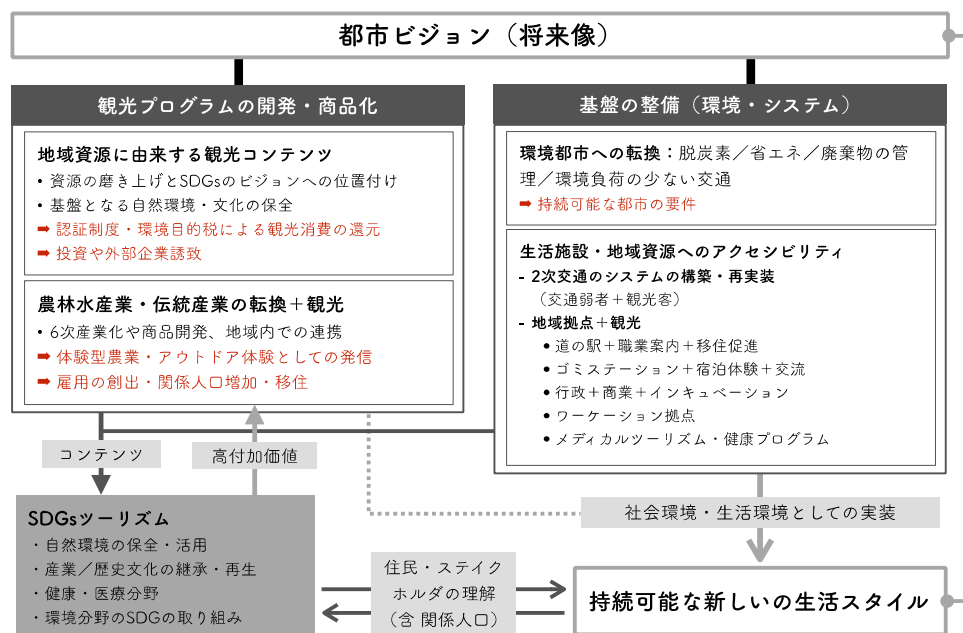


図 観光分野の取り組みを通じた都市ビジョンの実装・発信と生活レベルでの共有の可能性

### (2) SDGs ツーリズムと地域文化資源の継承

持続可能な観光を通じた地域文化資源の継承として、SDGs ツーリズムを通じた金沢市の取り組みを明らかにした。金沢市では、藩政期から受け継がれる歴史的な町並みや景観と生活様式、伝統文化との相互のつながりが、市民の暮らしに浸透していることが、その地域文化の背景とし

て説明される。これに対し、2015年の北陸新幹線の開業以降、発地側により観光コンテンツ化された「金沢」が「金沢らしさ」として消費されるといった状況が生じていたことから、SDGs 未来都市の応募に際しては、経済、社会、環境をつなぐ軸として「観光」を設定し、本物を求める観光客を呼び込むことができるコンテンツの提供、責任ある観光客との交流を通じたまちの価値の再発見、域内経済の循環と創出といった取り組みの連携により、国際交流都市を実現することが目標とされた。観光事業者からの先導的な企画の支援を目的に実施された公募型の「金沢 SDGs ツーリズム推進事業補助金」の実施状況から、SDGs ツーリズムとしてみ直しを通じ、生活文化としての現代的な意義が付加されるなど地域文化資源としての更新が見られる一方で、日常的な営みに関わるものであるため、本来の業務との調整と人材の確保、経験的に継承される技術の明文化といった課題により、レギュラーな観光コンテンツとして提供に至っているものは多くないことがわかった。

### (3) 健康・医療に視点を置いたまちづくりとウェルネスツーリズムを通じたビジョンの発信

健康・医療に視点を置いたまちづくりとウェルネスツーリズムなど観光への展開と、観光を通じた都市ビジョン浸透について、海外事例を中心とした調査を行い、全体のまとめを行った。ドイツ・オーストリア・イタリアのクアオルト地域と温泉保養地については、歴史的経緯や医療としての自然療法に対する制度的な扱いの変化等により、観光施設としての関連施設の活用、自然公園の利用施設や公園施設としての散策路やトレーニング施設の整備、市民のレジャー・レクリエーション施設としてのテルメの発展など、形態が多様であり、地域像の共有やブランディングを支える概念というよりは、都市政策を展開する上での一つのインフラとなっている。

また、アジアの都市回遊のトレイルでは、シンガポールのRIR (Round Island Route)、台北の台北大縦走、ソウルの市境を回遊する既存散策路の再整備)を調査し、自然公園や森林の活用とともに、近年の健康ブームや観光客増加に対応し公共交通との接続性を重視するなど、都市と自然のつながりを体感する機会を提供するものとなっている。ビジョンの浸透としては、自然公園的に位置付けられた環境のリブランディングと、新しい都市のライフスタイルの提示として機能していることがわかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 片桐由希子	4. 巻 86
2. 論文標題 金沢市における海岸保安林の変遷と管理運営主体としての地域の関わり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ランドスケープ研究	6. 最初と最後の頁 601-606
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.86.601	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 片桐由希子	4. 巻 31
2. 論文標題 地域環境デザインの教育と社会実装	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 工学教育研究	6. 最初と最後の頁 104-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 片桐由希子	4. 巻 2
2. 論文標題 SDGs 未来都市における持続可能な都市のビジョンと その共有・実現における観光の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Beyond SDGs イノベーション研究	6. 最初と最後の頁 1~12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51097/bsir.2.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 園木優美子・岡村祐	4. 巻 37
2. 論文標題 歴史的町並み地区におけるまちづくり団体の 古民家保全活動に起因する移住・定住の実態 -福岡県八女市八女福島地区を対象として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 287-292
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡村祐・菅井純也	4. 巻 都市計画部門研究協議会
2. 論文標題 市町村都市計画マスタープランにおける観光分野の記載状況	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 2022年度日本建築学会大会「新たな価値を実現するための都市・都市計画の枠組み」	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林睦・渡辺安菜・岡村祐・野原卓	4. 巻 F-1 (選抜梗概)
2. 論文標題 住工混在地域東京都大田区におけるSDGsツアーの開発と参加者の評価 おおたオープンファクトリー 2021でのモニターツアーの実施を通して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 731-734
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷藤健太・岡村祐	4. 巻 F-1
2. 論文標題 エスニックタウンにおける地域資源と地域共生イベントとの関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 497-498
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片桐由希子	4. 巻 2
2. 論文標題 SDGs 未来都市における持続可能な都市のビジョンと その共有・実現における観光の役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Beyond SDGs イノベーション研究	6. 最初と最後の頁 1~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51097/bsir.2.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片桐由希子, 鈴木太一, 清水哲夫	4. 巻 14
2. 論文標題 訪日インバウンドプロモーションとしての 成田空港トランジット&ステイプログラムの活用可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 観光科学研究	6. 最初と最後の頁 107 - 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 片桐由希子, 吉田葵
2. 発表標題 「未来の風景を共有」を目指したランドスケープデザインの取り組み: 石川県珠洲市
3. 学会等名 2022 年度日本造園学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 園木優美子・岡村祐
2. 発表標題 歴史的町並み地区におけるまちづくり団体の 古民家保全活動に起因する移住・定住の実態 -福岡県八女市八女福島地区を対象として
3. 学会等名 日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林睦・渡辺安菜・岡村祐・野原卓
2. 発表標題 住工混在地域東京都大田区におけるSDGsツアーの開発と参加者の評価 おおたオープンファクトリー2021でのモニターツアーの実施を通して
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷藤健太・岡村祐
2. 発表標題 エスニックタウンにおける地域資源と地域共生イベントとの関係
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡村祐・菅井純也
2. 発表標題 市町村都市計画マスタープランにおける観光分野の記載状況
3. 学会等名 2022年度日本建築学会大会 都市計画部門研究協議会「新たな価値を実現するための都市・都市計画の枠組み」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	岡村 祐  (OKAMURA YU)  (60535433)	東京都立大学・都市環境科学研究科・准教授   (22604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------